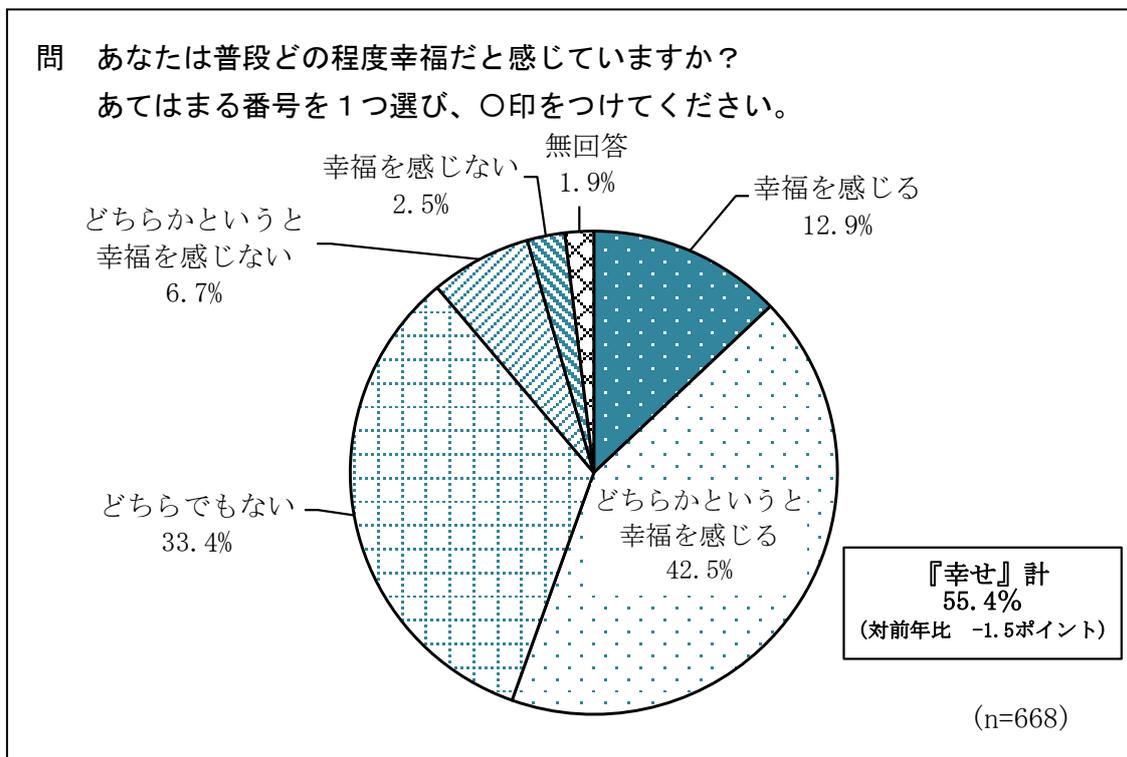


1. 幸福度の現状について

(1) 幸福度



半数以上の市民は幸せと感じています

【全体結果】

「幸福を感じる（とても幸せ）」(12.9%)と「どちらかという和幸福を感じる（どちらかというと幸せ）」(42.5%)の両者を合計すると『幸せ』(55.4%)となっています。

一方、「どちらかという和幸福を感じない（どちらかというと不幸せ）」(6.7%)と「幸福を感じない（不幸せ）」(2.5%)を合計すると『不幸せ』(9.2%)となっています。

【属性別結果】(図 1-1 参照)

① 性別

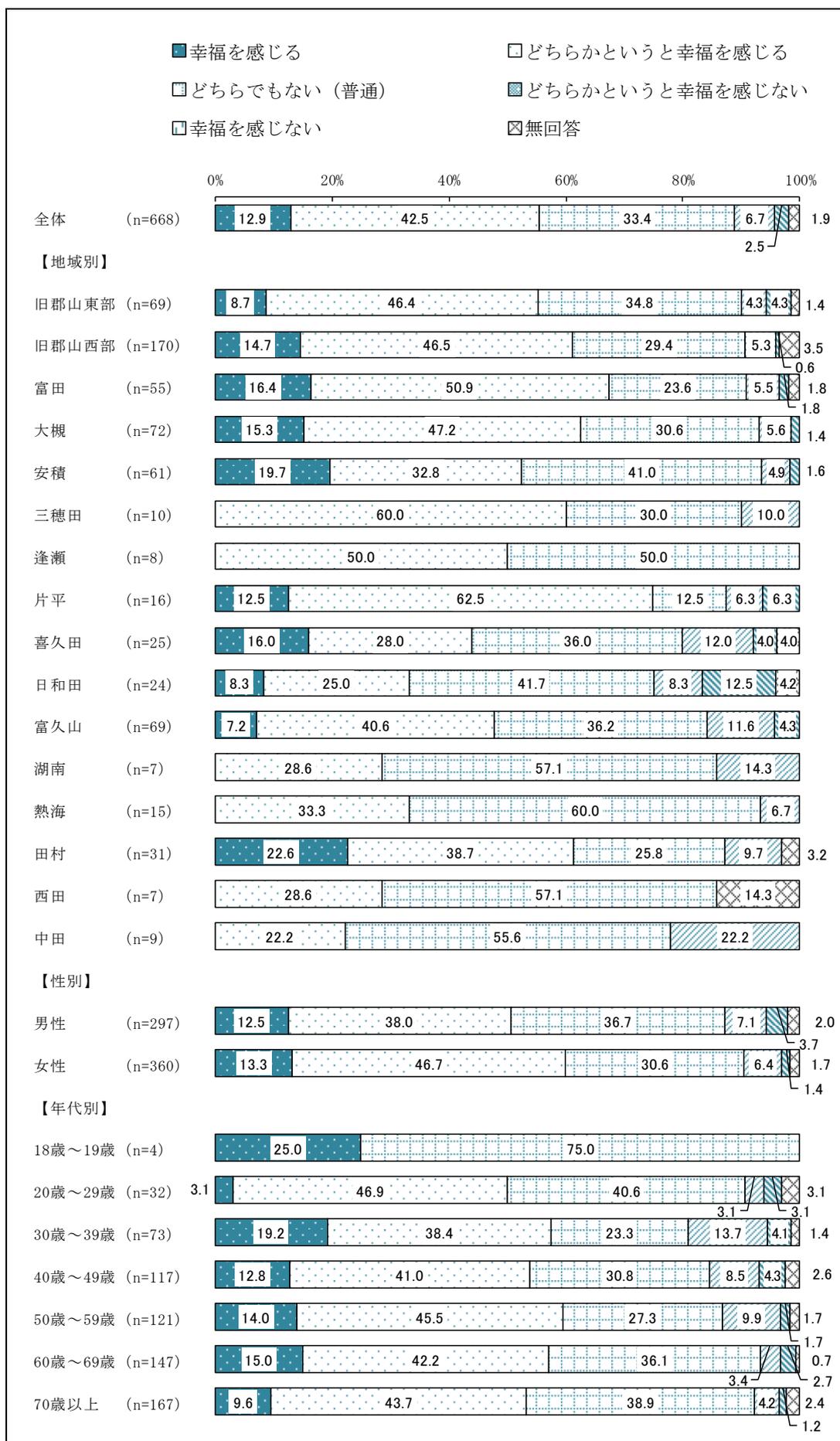
『幸せ』の割合は、女性(60.0%)の方が男性(50.5%)よりも高くなっています。

② 年代別

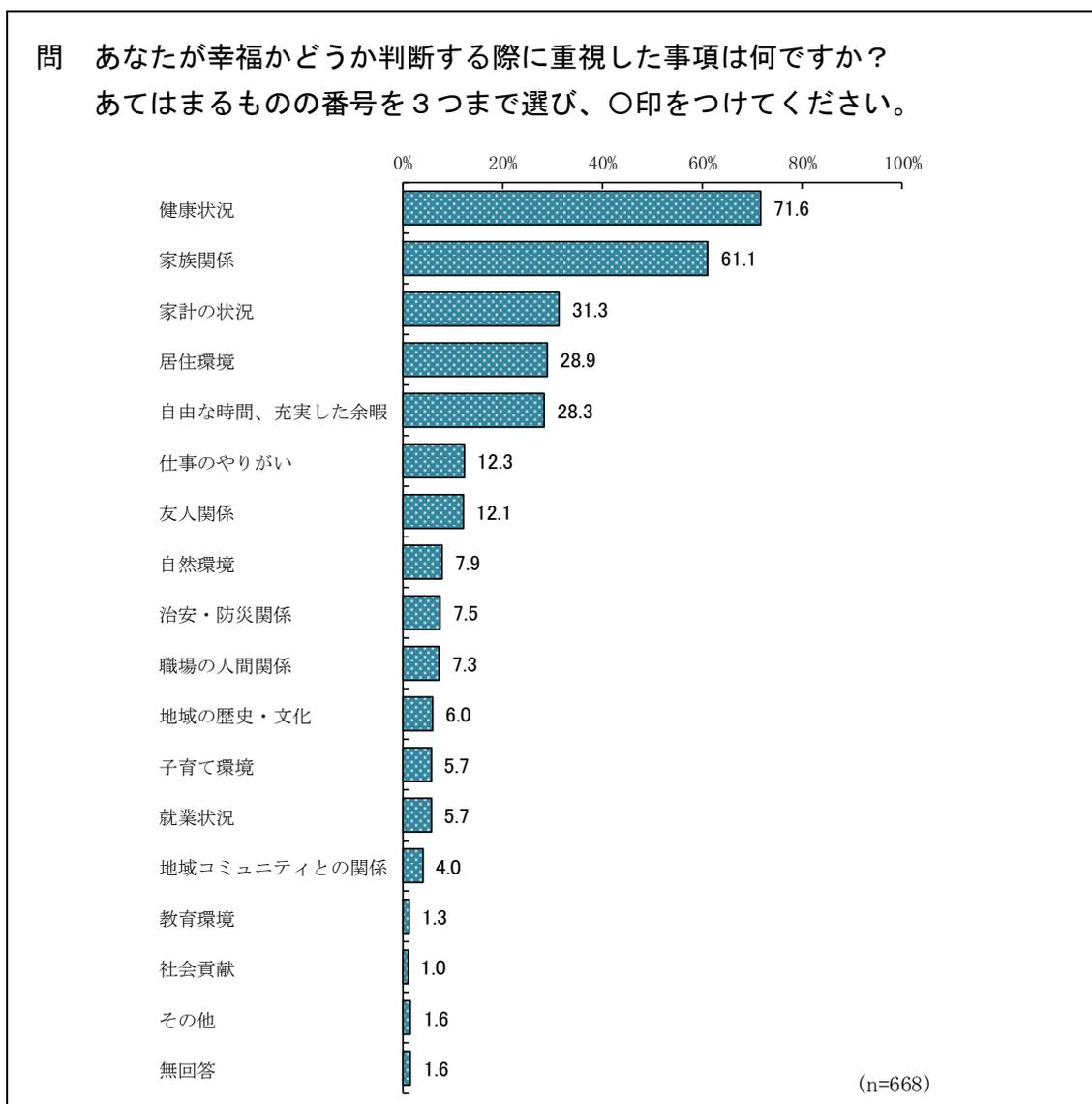
『幸せ』の割合は、50代(59.5%)で最も高くなっています。

なお、10代については回答数が少ないため、参考として数値のみ掲載します(以降同様)。

図 1 - 1 幸福度（地域別／性別／年代別）



(2) 幸福度の判断の際に重視した事項（複数回答）



幸福度の判断には「健康状況」、「家族関係」を重視

【全体結果】

幸福かどうか判断する際には「健康状況」（71.6%）、「家族関係」（61.1%）が特に重視されており、以下、「家計の状況」（31.3%）、「居住環境」（28.9%）、「自由な時間、充実した余暇」（28.3%）の順に続いています。

※WHO憲章では「健康とは、病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも精神的にも、そして社会的にも、すべてにおいて満たされた状態（well-being）にあることをいう」と定義されています。

【属性別結果】（図 1-2 参照）

① 性別

「健康状況」（男性：66.3%、女性：76.7%）と「友人関係」（男性：9.4%、女性：14.4%）については、女性の方が男性より高い割合で関心を持っているのに対して、「仕事のやりがい」（男性：15.8%、女性：9.2%）と「就業状況」（男性：8.4%、女性：3.3%）に関しては、男性の方が女性より高くなっています。

② 年代別

20代では「自由な時間、充実した余暇」に重点を置き、30～50代では「健康状況」や「家族関係」を重視し、高齢層では「健康状況」に加え、「居住環境」も重要視しています。

図1-2 幸福度の判断の際に重視した事項～1/6～（地域別／性別／年代別）

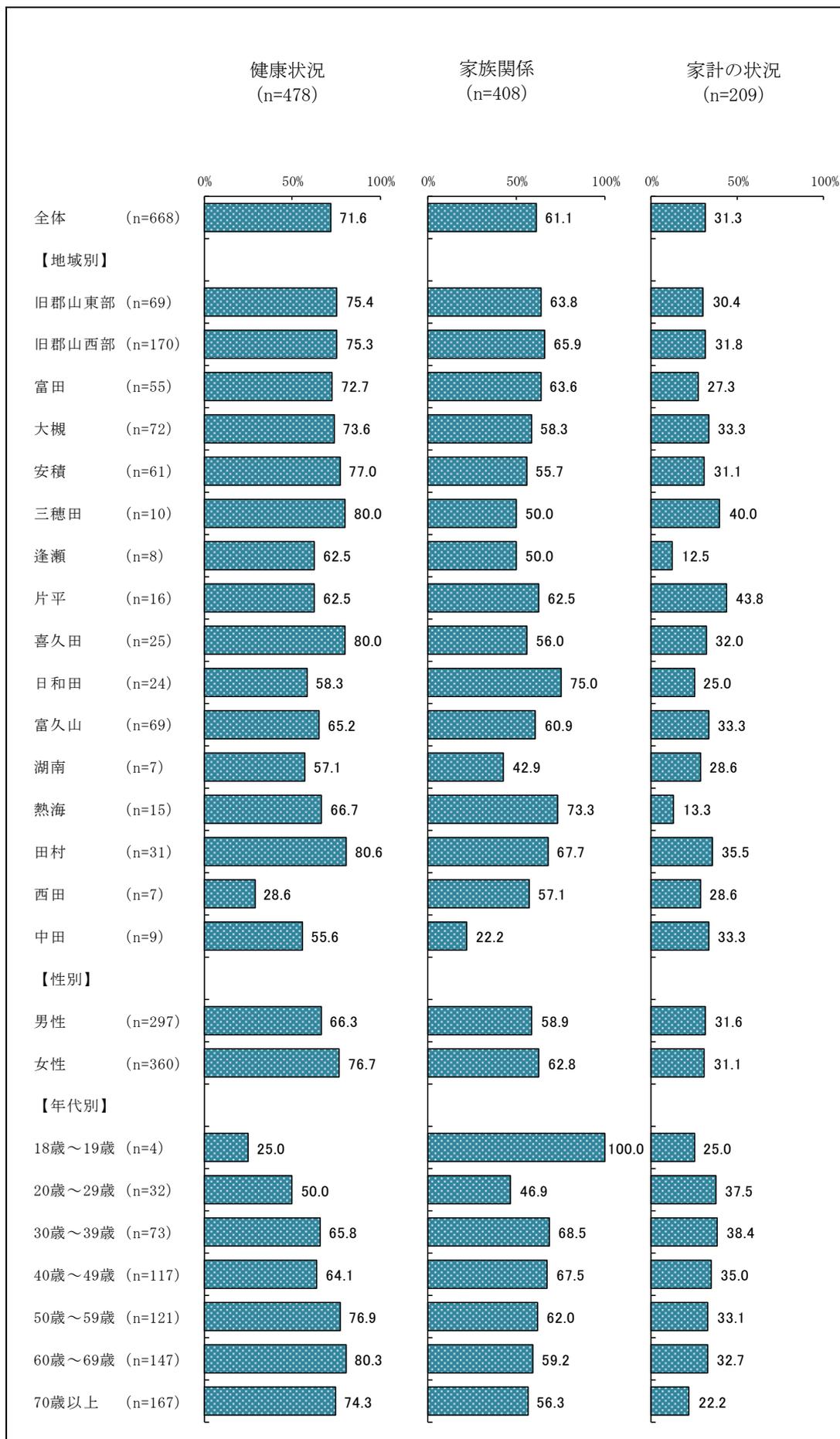


図1-2 幸福度の判断の際に重視した事項～2/6～（地域別／性別／年代別）

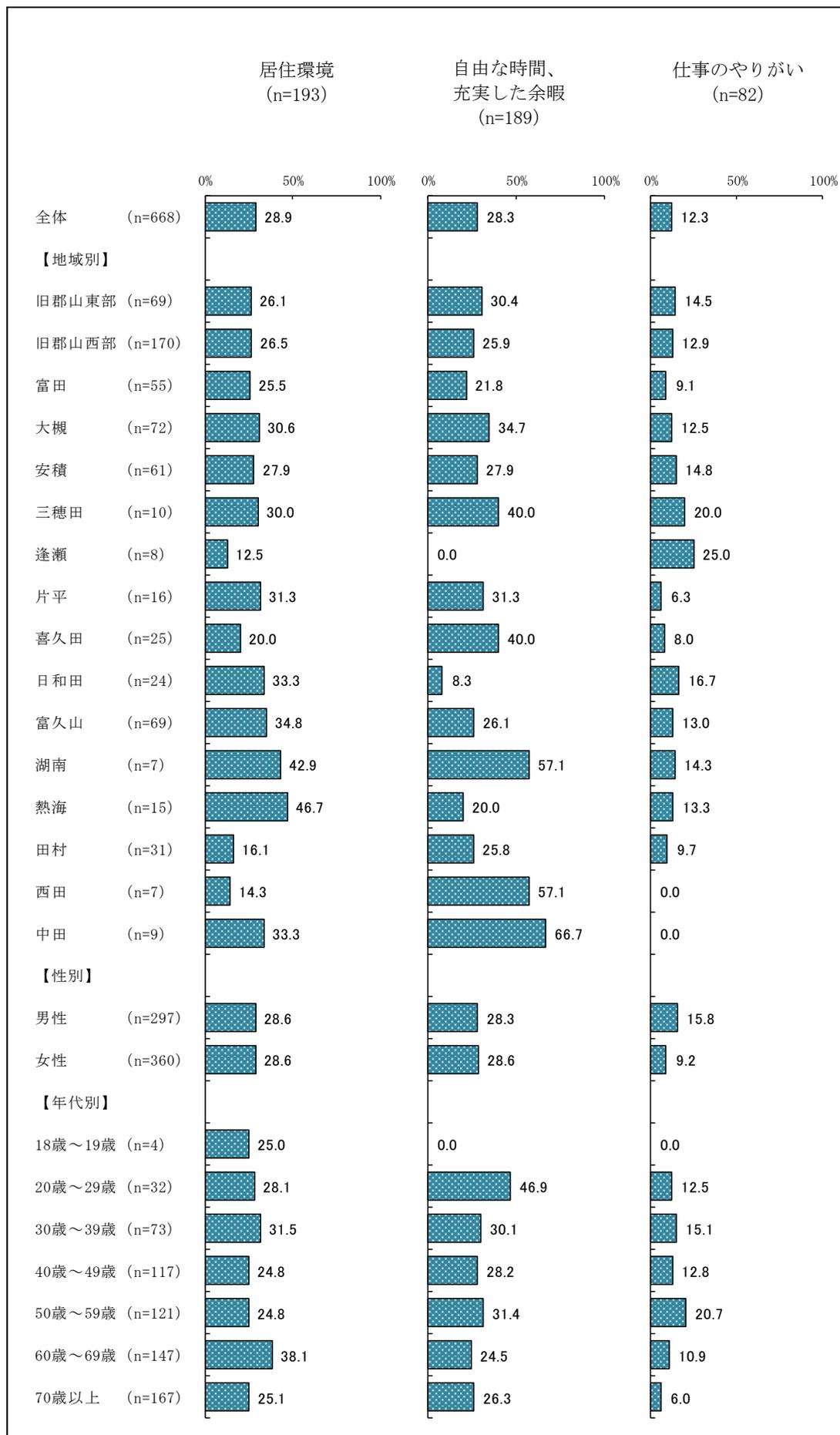


図 1-2 幸福度の判断の際に重視した事項～3/6～（地域別／性別／年代別）

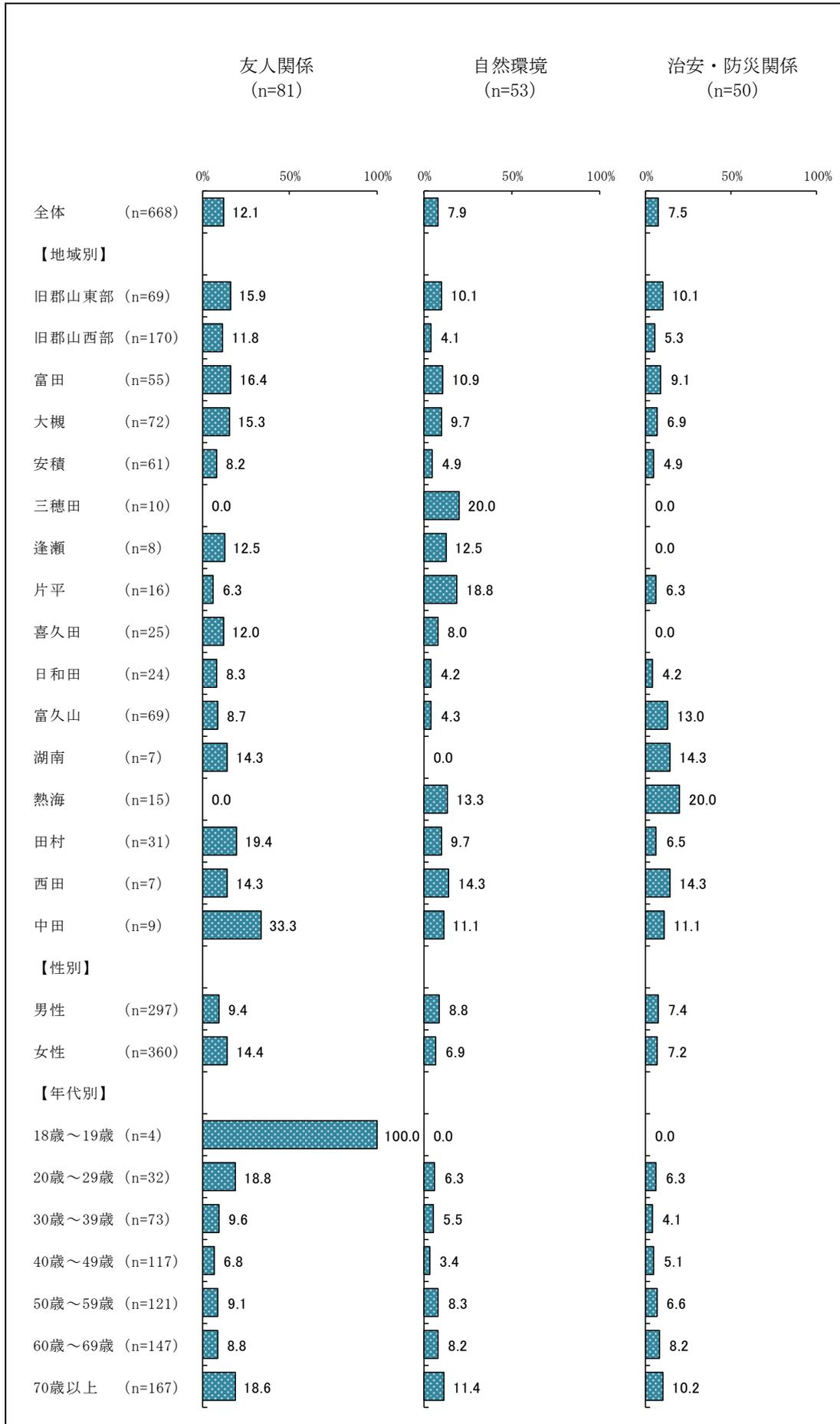


図1-2 幸福度の判断の際に重視した事項～4/6～（地域別／性別／年代別）



図 1 - 2 幸福度の判断の際に重視した事項～5/6～（地域別／性別／年代別）

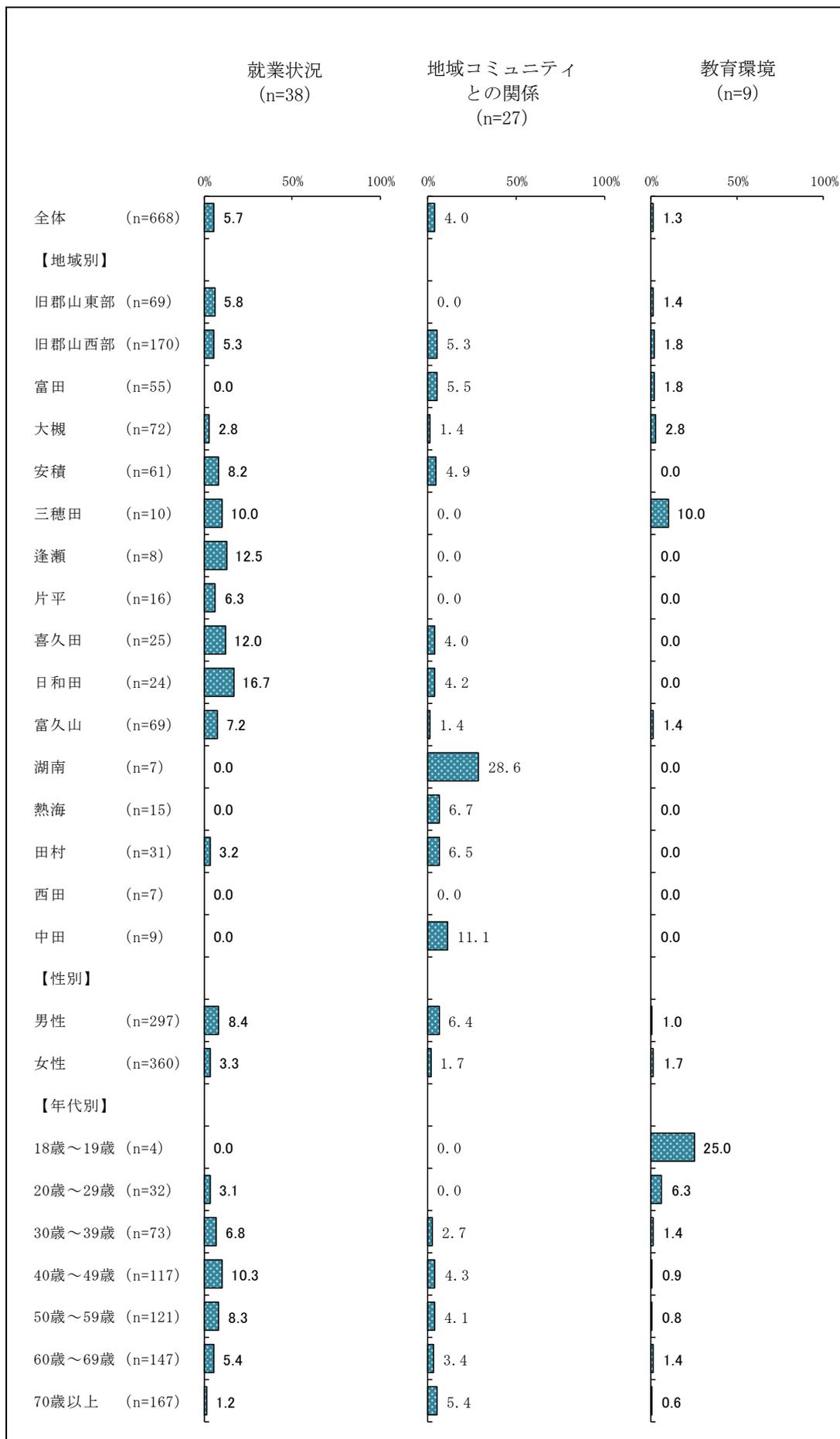


図 1-2 幸福度の判断の際に重視した事項～6/6～（地域別／性別／年代別）

